



農地・水保全管理支払交付金の活動に水土里情報を活用した事例を紹介します。

(1/2)

今回紹介する団体：愛知県内市町村、県内の農地・水活動組織
水土里ネット愛知

取組概要

内容：水土里情報利活用促進事業により整備されたデータに、農地・水保全管理用レイヤ（共同活動及び向上活動に取り組む活動組織の区域や対象施設のデータ）を重ね合わせ、農地・水保全管理支払交付金の活動計画書等の作成に活用。

経緯：①平成19年度の農地・水対策開始時は、申請用の図面作成は、ほとんどが紙の図面に手塗りで行われていたため、対象農地と面積集計が連動しておらず、計画見直し時等の対応に多大な労力が必要だった。

②本年度から水土里情報利活用促進事業により整備されたデータの利用を開始。航空写真等に農地・水保全管理用レイヤを重ね合わせた図面を活動計画図面として利用したり、農地筆図による農用地面積の集計や対象施設の延長の算出を行い、活動計画書を作成した。

農地・水保全管理用レイヤ

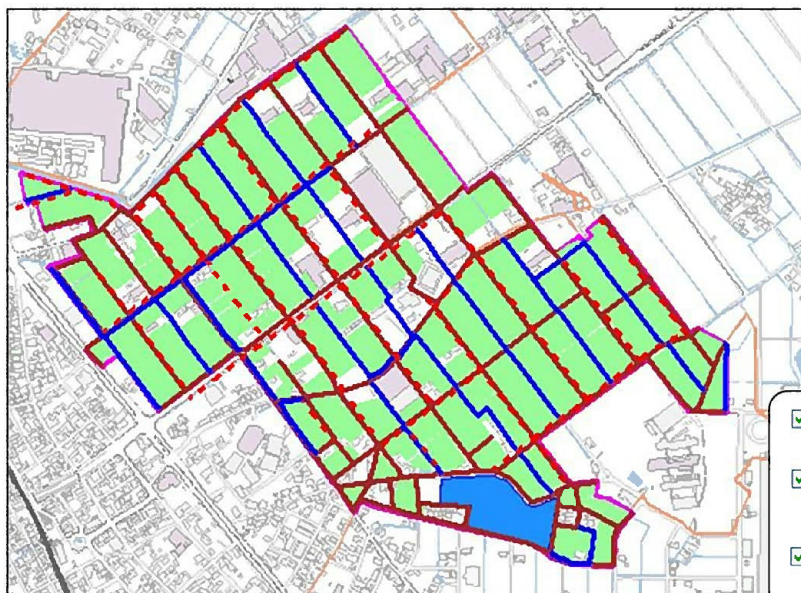
活動組織区域(ポリゴン)

対象施設(農用地・ため池)・・・ポリゴン

対象施設(水路・農道)・・・ライン

対象施設(その他施設)・・・ポイント

「農地・水保全管理用レイヤ」には農用地、対象施設を分類して整理



印刷イメージ

凡例

- 活動組織区域
- 対象施設(ポリゴン)
 - 農用地
 - ため池
- 対象施設(ライン)
 - パイプライン
 - 開水路
 - 農道

期待される効果

農地・水保全管理用レイヤを活用することで、

- ①農用地の地番管理が可能となるため、農地転用に伴う面積の再集計を迅速に行うことができ、変更図面の作成も容易となる。
- ②市町村担当者が全活動組織の対象農用地、対象施設を一体的に把握することが可能となる。

今後の活用予定

今後、農地の保全状況(遊休農地の発生状況)、施設の機能状況(点検・機能診断結果や補修の履歴)などの管理情報を登録することにより、地域の状況が一元的に把握できるよう活用の幅を広げていきたい。



施設の機能状況

点検・機能診断結果を登録し、補修の履歴と合わせて管理する。



農地の保全状況

遊休農地の発生状況を把握し、保全管理に活用する。

■お問い合わせ先

愛知県土地改良事業団体連合会 計画部調査課

052-551-3618

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(横田、柳川) 03-6744-2201(直通)